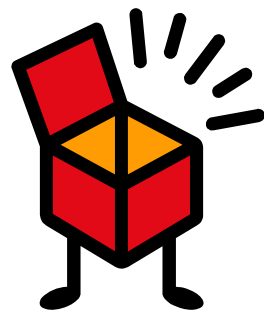


日立金属株式会社
2009年度第1四半期決算説明



Materials Mag!c

2009年7月27日

 日立金属株式会社
Hitachi Metals, Ltd.

<http://www.hitachi-metals.co.jp>

E-Mail : hmir@hitachi-metals.co.jp

2009年度連結業績要約

(単位:億円、()内は前年同期比)

	2007年度			2008年度			2009年度		
	1Q 実績	2Q累計 実績	通期 実績	1Q 実績	2Q累計 実績	通期 実績	1Q 実績	2Q累計 予想	通期 予想
売上高	1,724	3,463	7,011	1,756	3,537	5,907	925 (53%)	2,050 (58%)	4,600 (78%)
営業利益	125	266	597	154	297	151	△45 (△199)	△35 (△332)	100 (△51)
経常利益	135	250	544	174	297	102	△55 (△229)	△54 (△351)	65 (△37)
(特別損益)	36	△6	△30	△0	0	△104	△1 (△1)	△10 (△10)	△40 (+64)
税前利益	171	244	514	174	297	△2	△56 (△230)	△64 (△361)	25 (+27)
当期純利益	86	126	270	87	153	△30	△37 (△124)	△50 (△203)	10 (+40)
設備投資額	156	258	493	82	197	438	52 (△30)	123 (△74)	198 (△240)
減価償却費	73	140	294	75	153	318	74 (△1)	152 (△1)	310 (△8)
研究開発費	31	67	133	33	67	131	24 (△9)	58 (△9)	117 (△14)

2009年度第1四半期業績

売上高 925億円 前年度比 47%減(△831億円)

高級金属製品セグメント 48%減、電子・情報部品セグメント 50%減
高級機能部品セグメント 44%減

■高級金属製品セグメント

特殊鋼の電子金属材料は半導体、液晶向けともに回復基調にあるが、工具鋼は自動車向けを中心とした在庫調整の影響が続き大幅減少。ロールは鉄鋼減産の影響を受け減少。

■電子・情報部品セグメント

マグネットはPC・家電向けは回復の兆しを見せているが、自動車向けは生産調整の影響を受け減少、FA向けも設備投資抑制により大幅減少。情報部品は携帯関連が好調に推移したが需要低調。アモルファス(軟磁性材料)も前年同期に比べ減少。

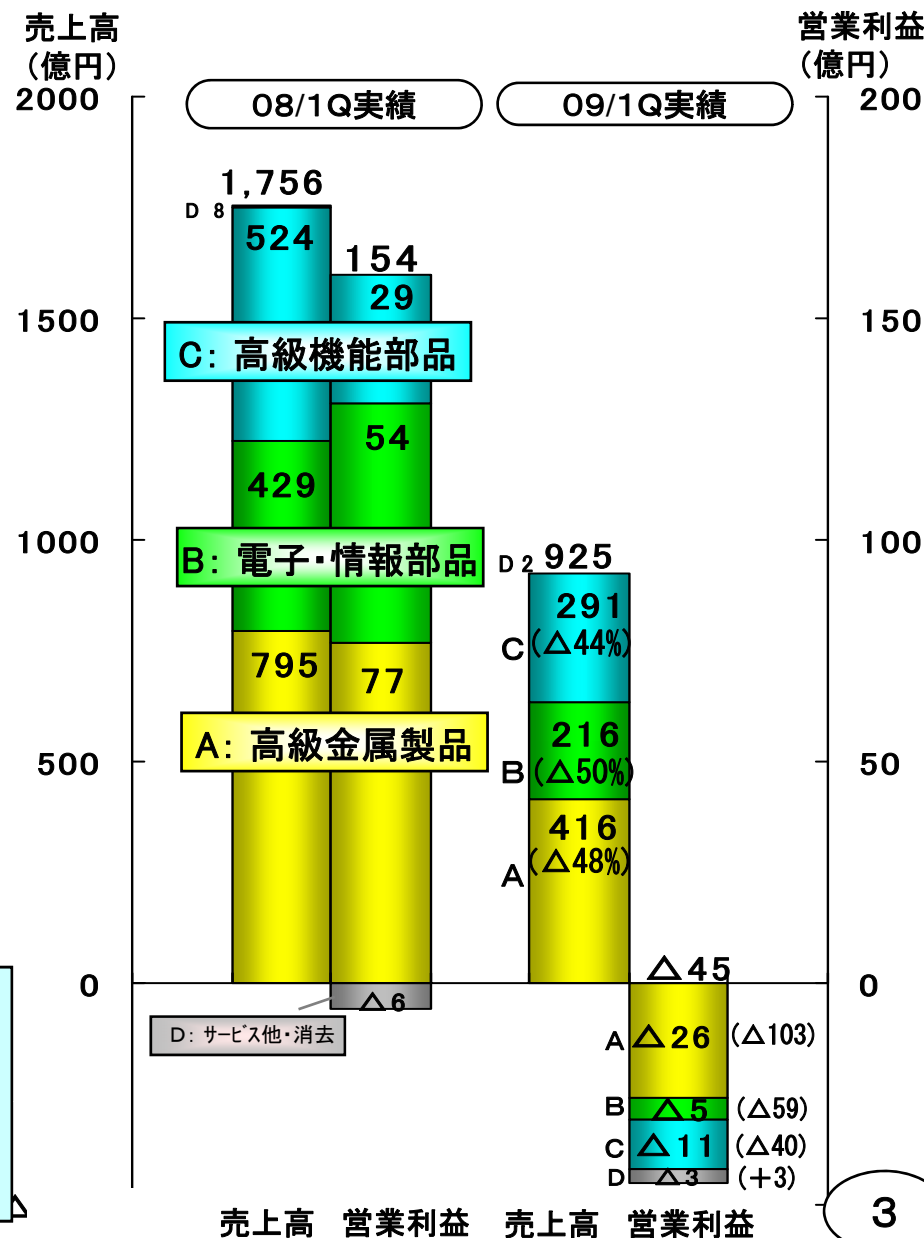
■高級機能部品セグメント

自動車用鋳物は、ダクタイル鋳鉄は自動車減産の影響により大幅減少、耐熱鋳造部品は欧州向けは回復基調に転じたものの、北米向けは需要低迷が継続。アルミホイールは在庫調整が続き減少。配管機器は投資の抑制が続き、需要低迷が続く。

営業利益 △45億円 前年度比 199億円減

高級金属製品セグメント 103億円減、電子・情報部品セグメント 59億円減
高級機能部品セグメント 40億円減

固定費削減を推し進めるも、自動車関連製品における在庫調整や需要停滞による売上減の影響大きく、前年同期に比べると199億円の減となった。



2009年度業績予想

売上高 4,600億円 前年度比 $\Delta 22\%$ (1,307億円減)
営業利益 100億円 前年度比 $\Delta 34\%$ (51億円減)

■高級金属製品セグメント

売上高 2,050億円 (前年度比 $\Delta 23\%$)
 営業利益 38億円 (前年度比 19億円減)

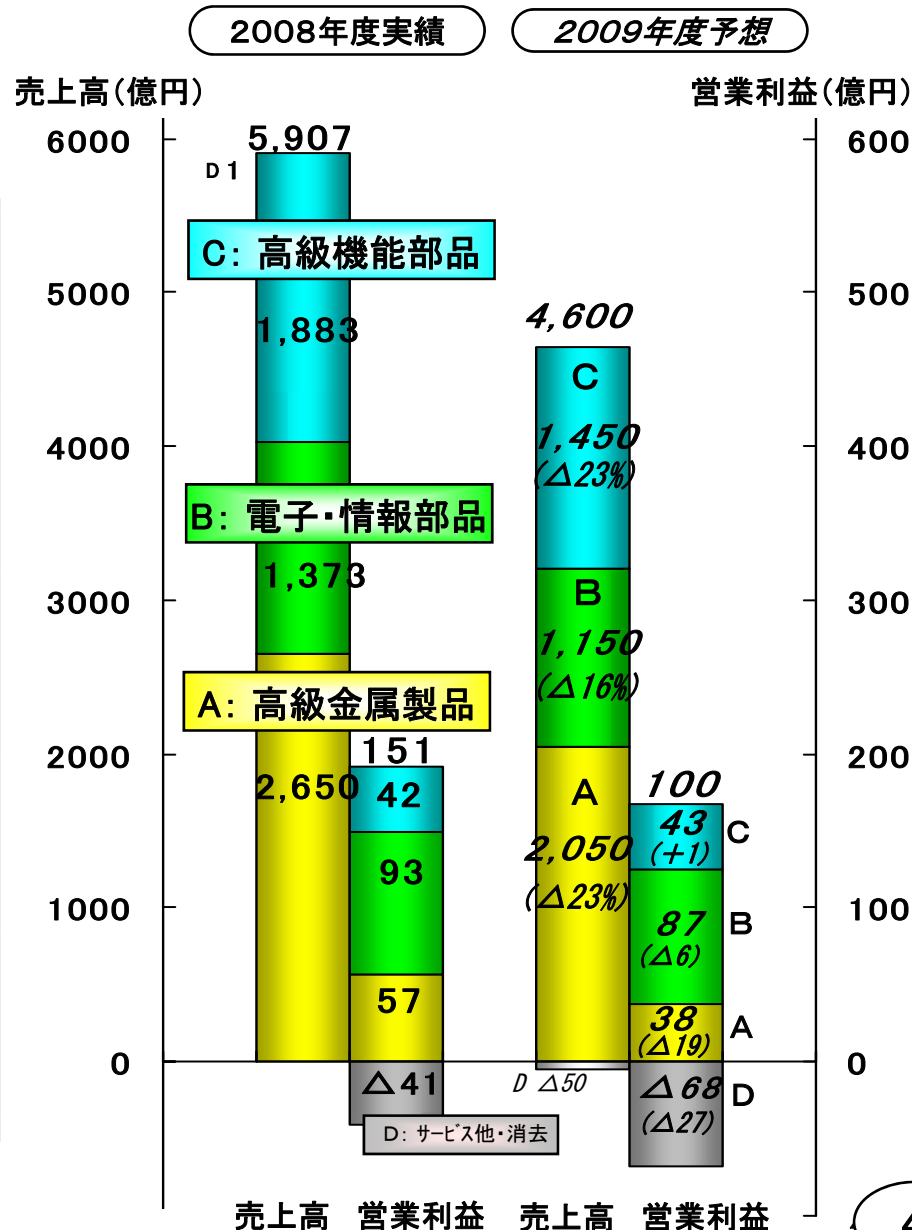
■電子・情報部品セグメント

売上高 1,150億円 (前年度比 $\Delta 16\%$)
 営業利益 87億円 (前年度比 6億円減)

■高級機能部品セグメント

売上高 1,450億円 (前年度比 $\Delta 23\%$)
 営業利益 43億円 (前年度比 1億円増)

エレクトロニクス関連製品には需要回復の兆しが表れつつある一方、自動車関連市場の回復時期は不透明な状況であるが、固定費削減などの効果もあり、従来予想に変更なし。引き続き固定費の削減等を実施するとともに事業構造改革を実行、次なる成長に向けた体質強化を行っていく。

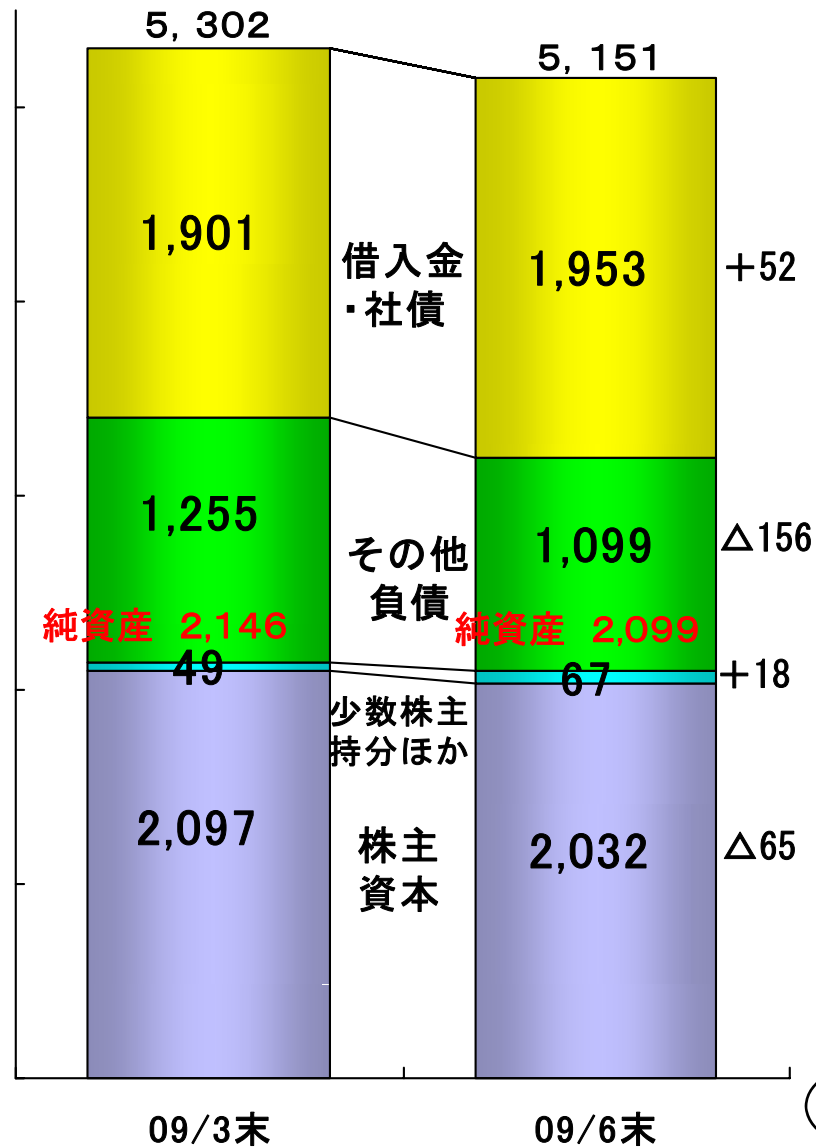
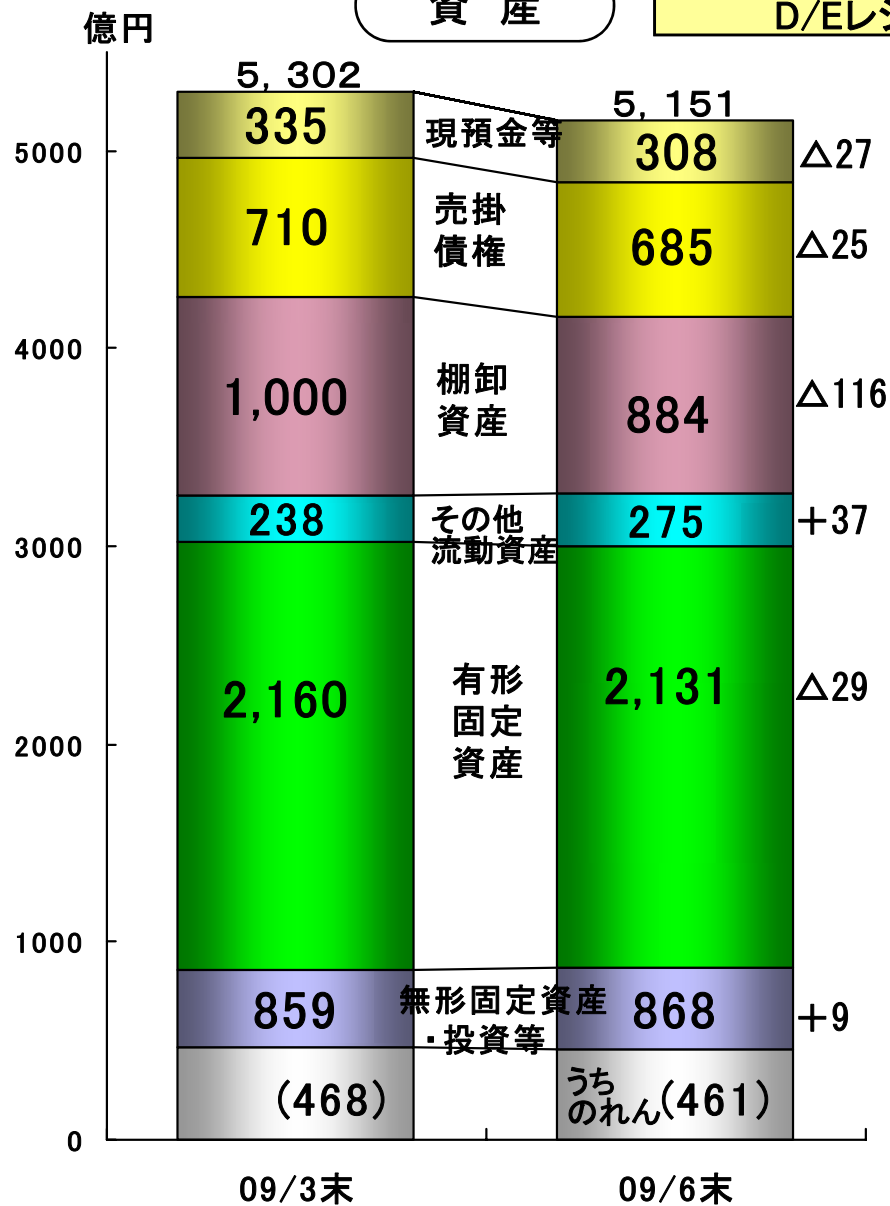


連結B/S残高

09/3末比増減 $\Delta 151$ 億円
D/Eレシオ 1.03

資産

負債・純資産



連結キャッシュ・フロー

(億円)

科 目	08年度 第1四半期	09年度 第1四半期
税金等調整前当期利益	174	△56
減価償却費	75	74
設備投資	△82	△52
その他	△190	△15
フリーキャッシュ・フロー	△23	△49
借入金・社債の増減	31	55
配当金支払他	△34	△31
換算差額	△5	△1
増加額または減少額合計	△31	△26

(注) 設備投資は検収ベース、08年度は受取利息・配当、支払利息組替後

(参考)各セグメントの事業構成

高級金属製品

特殊鋼カンパニー

ロールカンパニー

日立ツールグループ

電子・情報部品

NEOMAXカンパニー

情報部品カンパニー

軟磁性材料カンパニー

高級機能部品

自動車機器カンパニー

配管機器カンパニー

日立機材グループ

サービス他

販売・サービス会社

その他製造会社



本資料に掲載されている情報のうち業績予想、事業計画および配当予想等の歴史的事実以外のものは、各資料の作成時点において、予想を行うために合理的であると判断した一定の前提および仮定に基づいており、内在する仮定および状況の変化等により、実際の業績と異なる可能性があります。その要因となるもの主なものは次のとおりです。

- ・主要市場(特に日本、米国、アジア、欧州)における経済状況および各種規制
- ・急激な技術変化
- ・競争優位性および新技術・新製品の開発・事業化を実現する当社および子会社の能力
- ・製品市場、製品市況の変動
- ・為替相場の変動
- ・国際商品市況の変動
- ・資金調達環境
- ・製品需給、製品市況、為替相場および国際商品市況等の変動に対応する当社および子会社の能力
- ・自社特許の保護および他社特許の利用の確保
- ・製品開発等における他社との提携関係
- ・日本の株式相場の変動